

平成28年

# 全国山火事予防運動

林野庁では3月1日～7日を中心として「全国山火事予防運動」を実施し、「誓います 森の安全 火の始末」を統一標語として全国で山火事予防意識の高揚を図る運動や森林・パトロール等を実施してまいります。



平成28年山火事予防ポスター原画・  
標語音楽  
主催：(一財) 日本森林林業振興会  
後援：文部科学省・消防庁・林野庁・  
全国森林組合連合会・森林火災  
対策協会

山火事予防運動実施中  
主唱：林野庁・消防庁

ポスター画家  
香川真 香川県立高松工業高等学校3年 平井 美空  
標語 愛知県清洲市 松永 智文



平成27年4月に発生した  
秋田県大仙市の山火事



## ■春は山火事の危険期

山火事は例年3～5月に集中して発生しています。森林内の落葉が燃えやすい状態になっているとともに、空気の乾燥やフェーン現象などの気象条件等から、山火事発生の危険性が非常に高い時期となります。

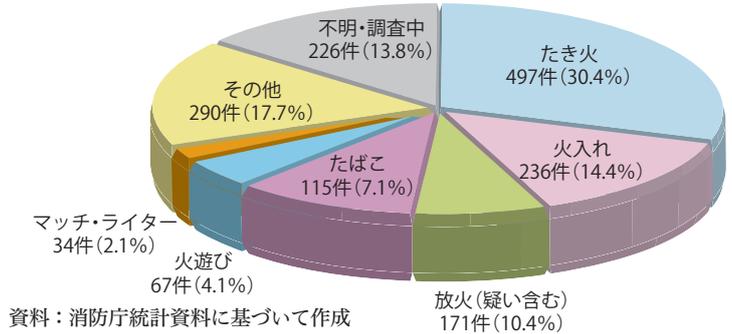
山火事はいったん発生すると、消火は容易ではなく、また、長い年月をかけて育てた貴重な森林を一瞬にして失うこととなります。空気の乾燥する日や風の強い日には、たき火、火入れを止めるなど、特別な注意が必要です。

暖冬により融雪が早まっている地域では、山火事の危険期間が早まることも予想されますので早めの取組が必要です。



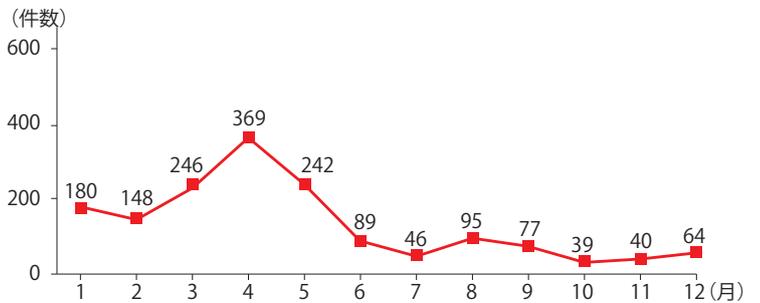
### 原因別発生件数(平成22~26年の平均)

出火原因は、たき火が1位で30.4%を占め、次いで火入れ、放火(疑い含む)、たばこ、火遊びの順になっています。一人ひとりが注意することで、ほとんどの山火事は防ぐことが可能です。



### 月別発生件数(平成22~26年の平均)

過去5年間では、3~5月の発生が1年の発生件数の約半分を占めています。この時期の乾燥した風の強い日は、たき火、火入れなどをしないなどの注意が特に必要です。



### 近年の林野火災の発生状況

林野火災は過去5ヶ年平均で年間約1.6千件発生し、焼損面積は約1千ヘクタール、損害額は約5億8千万円となっています。

区分/年次	H22	H23	H24	H25	H26	平均(平成22年~26年)
出火件数(件)	1,392	2,093	1,178	2,020	1,494	1,635
焼損面積(ha)	755	2,071	372	971	1,062	1,046
損害額(百万円)	71	1,017	190	233	1,369	576

資料：消防庁統計資料に基づいて作成



## 予防のポイント

- 枯れ草等のある火災が起こりやすい場所ではたき火をしないこと
- たき火等火気の使用中はその場を離れず、使用後は完全に消火すること
- 強風時及び乾燥時には、たき火、火入れをしないこと
- 火入れを行う際、許可を必ず受けること
- たばこは、指定された場所で喫煙し、吸いがらは必ず消すとともに、投げ捨てないこと
- 火遊びはしないこと